

特集『歎異抄』の魅力

『歎異抄』の魅力

世界を魅了する宗教書

日本のみならず、世界の人々を魅了し続ける宗教書『歎異抄』。その魅力をひと言で表せば「目で聞く親鸞聖人の肉声」といえます。「阿弥陀仏の本願を信ずる以外にどんな善もいらない」と、念仏一つで救われていく道を端的に示され、「仏の救い」を、私たち凡夫のもとへと引き下ろしてくださった親鸞聖人。仏の救い、仏のさとりに出会うということは、このいのちが時空を超えて真実に出会うことです。そんな親鸞聖人のみ教えに、あなたもぜひ出遇ってください。



イラスト・鈴木いこ

■親鸞聖人のお言葉「道しるべ」に

親鸞聖人がご誕生になってからまもなく850年を迎えます。思えばこの長い年月の間、どれだけ多くの人々が、人生の冷厳な現実の前にただひとり立ちながらも、お念仏に励まされ、阿弥陀如来の温もりの中に人生を送っていかれたことでしょう。また、痛切な愛別離苦の中、先立たれた方に導かれつつ浄土への人生を歩んでいかれたことでしょうか。

こうして親鸞聖人の開かれたみ教えが人々の間に受け継がれ、そしてずっと生き続けてきたという事実は、まことに驚くべきことであり、実に尊いことであります。そこにはこれまでに、聖人のみ教えが正しく伝わることを強く願い、そのために生涯を尽くし、ご苦労してくださった数多くの先人たちがいてくださったことを思わずにはいられません。

親鸞聖人がご往生された後、同じみ教えに触れながら、まるで異なる理解をして「これが聖人の教えだ」と平然と吹聴する者たちが



「ののさまにおまいりしようね」と、家族で仏さまに手を合やす新年の朝。この「ののさま」は、「のんのんさま」が短くなったもので、「のんのんさま」は「のんさま」をくり返したものだといふ（中西進著『美しい日本語の風景』）。

▼昔、式部省という役所があって、これを「のり（法）のつかさ」といったが、一般の人々は「のんのつかさ」と発音したという。このようなことから、「のんさま」となり、「のんのんさま」、そして「ののさま」となったようである。

▼浄土真宗の「ののさま」は阿弥陀仏だが、「無量光仏」ともいい。親鸞聖人は十二の光でその特質を明らかにされた。その一つ「智慧光」をたたえるご和讃に「光暁かぶらぬものはなし」とある。光暁とは、闇が破られていくこと。暁は現代ではやや明るくなってからを指すが、古くは、暗いうち、夜が明けようとするときのことで。月明かりのない真っ暗な闇の中で、次第に陰の輪郭が明らかになっていく。暁では、その陰を通して、光の存在を知るのだ。

▼これと正反対なのがホワイトアウト現象。雪や雲で視界全体が白一色になる現象で、光が乱反射して視野が遮られ、1秒先さえ見えなくなる。つまり陰が一切失われて、天地の区別も方向感覚も喪失してしまう。私たちは陰があるから光を知り、その陰に導かれて歩むことができるのだ。今年も「ののさま」のみ光に照らされて、私という陰を知らされ、導かれながら、一步一步を大切に歩んでいきたい。（N）



福岡支局 〒812-0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181/大谷本願 075(531)4171

本願寺ホームページ <http://www.hongwanji.or.jp>

筆者・井上見淳

(龍谷大学准教授)



たえば、親鸞聖人が端的な言葉で見事にみ教えを表現された一節が出てきたかと思うと、唐突に聖人が門弟たちと対峙する緊迫した場面が描かれ、聖人が余す所なくご領解を語られます。ほかに

現代に至るまで、『歎異抄』は多くの人々にとって、まるで親鸞聖人に出遇っていく「窓」のような存在として在り続けています。今、あらためてこの『歎異抄』の世界を少しだけ紹介してみたいと思います。（2、3ページに続く）

■「語らい」から生まれた珠玉の言葉

現在、この著者とは『歎異抄』の中の印象的な場面とその名が登場し、当時から「鸞聖人の面授なり。鴻才弁説の名譽あり」（『慕帰絵』）と称された河和の唯円房であつたといわれています。

唯円房は当時の誤った理解について、『歎異抄』後半の第10条途中から第18条に書き記し、前半の第1条から第10条の途中まで、後序（あとがき）には、自身が直接聞いた親鸞聖人の、それはもう実に鮮烈な言葉の数々を書き留めたのでした。

「語らい」の中でこそ生まれた珠玉の言葉だつたといえましょう。

こちらの「常識」を次々に揺さぶる聖人の鋭いお言葉や痛快な論理の数々、唯円房との語らいの中、嘘のない言葉でわが身を語られる聖人の姿。

どの条も読み終わると、阿弥陀如来の本願のなかに生きていかれた親鸞聖人の人となり伝わってきて、何とも言えないあたたかな後味を残します。これらは聖人の書物には出てこない、「語らい」の中でこそ生まれた珠玉の言葉だつたといえましょう。

彼は「聖人の信心と異なることを歎く」という思いから、この書を『歎異抄』と名づけました。しかし奥ゆかしくも、彼はそこに自身の名は記さなかったのです。

に、「これらの言葉を書き留めておかなければならない。それがきつと同じ道を歩もうとする者たちにとって道しるべのようになっていくから」と決意して、一冊の書を著します。

彼は「聖人の信心と異なることを歎く」という思いから、この書を『歎異抄』と名づけました。しかし奥ゆかしくも、彼はそこに自身の名は記さなかったのです。

ご門主さま著書

最新刊

令和版

仏の教え

阿弥陀さまにおまかせして生きる

B6変形 並製236ページ 定価(本体1300円+税)

お近くの書店、または本願寺出版社でもお申し込みいただけます

本願寺出版社 FAX:075-341-7753



0120-464-583

人生は苦の連続なれど、必ず道は照らされる

新しい日常に 向き合うヒント

大谷光淳 西本願寺 第25代門主



幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7 TEL:03-5411-6222 FAX:03-5411-6233 <https://www.gentosha.co.jp/>

令和版 仏の教え

阿弥陀さまに おまかせして 生きる 大谷光淳

すべてが 当たり前でなく、 ありがたい 人生は苦の連続なれど、 必ず道は照らされる

親鸞聖人の 血脈を継ぐ 若きリーダーが 著す新しい日常に 向き合うヒント

B6変形 並製236ページ 定価(本体1300円+税)